

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195700125		
法人名	株式会社 大渡		
事業所名	グループホーム ひまわり (1F)		
所在地	岩見沢市7条西5丁目5-8		
自己評価作成日	平成29年2月25日	評価結果市町村受理日	平成29年4月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0195700125-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マルシェ研究所
所在地	北海道江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成 29 年 3 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者からの希望や職員の提案から外出や行事などさまざまな取り組みを行い、また、知人や家族の来訪も多く、住み慣れた地域と家族とのつながりを大切にしています。

喜怒哀楽の気持ちに寄り添えるよう個別ケアに努め、笑い声や話声、廊下を歩く方、料理をされる方、読書や手芸をされる方など別々のことをされていることもあれば、全員でテレビをみている歌を唄う、レクリエーション活動や体操などを行うこともあり、職員と共に楽しみや笑顔のある一日を過ごしていただけるよう支援している。

グループホームひまわりは、平成28年4月に1階のユニット、7月に2階のユニットを開設しました。設立時に管理者、職員で目指すべき介護について検討し、理念を定め日常のケアに反映しています。新規事業所ということで、職員は自由に意見を交わし、ユニットごとに利用者の特性に合わせた過ごし方に工夫を凝らしています。利用者がその時だからできることを時期を逃さず一緒に楽しみ、また今後は、地域の高齢化などで実施が難しくなっている盆踊りの開催や地域の助け合い活動に積極的に貢献することを予定しています。職員は、利用者が自由な生活を送るため、家族に利用者の希望とそれに伴うリスクを伝え、その希望を叶えるため、利用者の身体状況を見極め、介護計画に反映し環境を整えています。利用者と家族の絆が途切れないよう、家族同行での外出行事や利用者の生活の様子を伝えるなど家族支援にも力を入れています。開設時より運営側と職員側が共に協力し合い、介護の現場を魅力あるものとしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が正確に理解している状態ではないが、理解を深めていけるよう研修会やケア会議などを通じ、理念の実践に向けて話し合いや確認を行っている。	開設時に事業所の目指すべきケアについて検討し、介護理念を定めています。採用時や研修会、会議などで取り上げ、介護計画や日々のケアに反映しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会行事に参加させて頂くことやホームの広場に地域の方も利用できる休憩場所を設け、交流の場となっている。	町内会の行事に参加し、交流しています。事業所の行事にも地域からの参加があります。今後、高齢化が進む地域で盆踊りを企画するなど、地域との協力関係の構築を進めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との日頃の挨拶や対話、行事等で利用者を知り、認知症についてご理解頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではテーマを設け話し合いを行っている。運営推進会議のなかでの質問や意見を職員会議で周知し、今後の取り組みとして活かしている。	運営推進会議は2ヵ月おきに開催しています。家族、行政、地域、知見者が参加し、地域の状況や事業所の運営について、情報を共有し、今後の取り組みの方向性などを話し合っています。	議事録は文字の大きさなど読みやすさに配慮し、話し合いの内容と、今後の事業所としての取り組み目標も記載されています。全家族に参加案内をしていますが、欠席の場合にも内容を周知するため議事録を家族に送付するよう期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員の担当者の方から面会やメール、電話などで助言や協力を頂いている。	開設1年目の事業所であり、運営についての相談をこまめに行い手続き等を適切に行っています。また、運営推進会議では出席者より家族からの意向の引き出し方などを学び、より良い運営ができるよう取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員を選任し、外部研修に参加して学んだことを施設内研修会として行い、職員間でも共通認識をもてるよう取り組んでいる。	身体拘束の弊害や排除について記載されたマニュアルがあり内部研修も行っています。事業所内で委員会を組織し、定期的な周知と、身体拘束を行わない環境作りや職員の介護技術の向上に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員を選任し、不適切なケアについて検証し虐待を予防していけるよう施設内研修会を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設けられてはいないが、今後学ぶ機会を設け、理解を深めていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、お互いに誤解をうまないよう話し合いを重ねている。また、重要事項の説明も行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、ささいな事でも話し合えるような雰囲気づくりを心掛けている。日常の生活の状況報告として毎月お便りを配布している。	来訪時に話を聞くほか、電話やメールなど、家族が希望する方法で連絡を取っています。家族が参加する焼肉会の開催など、利用者の様子を知ってもらい、意向を引き出しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や連絡ノート、日常の会話等で意見や提案が出されている。都度反映されたり、主任と管理者との会議で検討している。	毎月全体会議とユニット会議を行い、意見を聴取しています。開設以来、希望休みを取れるように組織作りを行っています。利用者に喜ばれる介護の提供でモチベーションを高めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場に出て、スタッフの様子、行われている支援を把握している。月に一回職員会議とは別に管理者、主任、職員との話し合いの場を設け環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加や定期的に内部研修会を行いケアの向上に努めている。また職員は定期的に自己チェックシートで自己評価してもらい、管理者と面談し目標に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームに実習に行くことや合同の行事等を行っている。また、他事業所の研修会にも参加し、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談や入居前訪問で本人の状況を把握するよう努めている。入居後においても職員間で情報を共有し合い、気持ちに寄り添いながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃から話しやすい雰囲気づくりに努め、入居前の段階から家族が感じている想いをくみとれるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームで出来ることや難しい事があるなかで、相談を受けた際に、本人・家族などに確認し、出来る限り柔軟な対応を行っていきけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさのある生活をおくって頂けるように日々の生活のなかで人生の先輩としてさまざまなことを教えてもらい、暮らしを共にする者同士の関係になれるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時の会話だけではなく、生活状況報告書など書面での伝達や希望に合わせ、小まめな電話連絡をするなど、本人同様に大切な存在として捉えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅生活中からの馴染みの理美容室を利用。命日に月参り、地域の友人・知人の訪問を日頃から大切に継続して支援するよう努めている。	通いながれた美容室や、月命日のお参りの支援をしています。カラオケにも出かけており、今後はボランティアの活用で趣味活動の充実も検討しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席やレクリエーション活動など利用者同士の関わりや性格を考慮したうえで、関わり合いや支え合えるような支援の配慮に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域であった際に近況報告などを伝え合ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から穏やかな雰囲気づくりを目指し、本人との会話ややりとりのなかで暮らしの希望や意向の把握に努めている。	利用者ごとに担当職員が決まっており、利用者の言葉を記録し心の変化や葛藤を受け止めています。利用者の今したいこと、今だからできることを実現するよう取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族との会話や基本情報などの書面を通じ、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づきや変化を感じ取り、対応していけるよう支援記録やアセスメントシートなどの記録や職員間でも話し合うことで情報を共有し合い現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でも意見交換を行ったうえでモニタリングやカンファレンスを実施し、また家族にも意見交換や確認のうえで、介護計画を作成している。	介護計画は利用者と家族の希望を踏まえ作成しています。アセスメントではできないことを見極め、モニタリングを行い、2カ月ごとに計画の見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の書き方や書式についても話し合い、よりスムーズな情報の共有ができるように取り組んでいる。職員間の周知のもと、話し合いや記録をベースに介護計画を見直し実践に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族から希望を聞きいた際には相談や同意を得て対応できるものは、職員間で話し合い出来る限り柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食やドライブ、散歩など本人の希望を聞き積極的に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から利用されている病院に家族や職員で対応している。また状況に応じ、家族と本人の了承のもと往診可能な東町ファミリークリニックに転院して頂き対応している。	病院の選択は利用者に委ねられています。利用者の生活の様子や服薬後の様子を医師に伝え、処方の調整で減薬に繋がった事例があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師との相談や状況報告のもと適切な受診が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急遽の入院にも対応できるように、内服薬や既往歴など本人の状況をまとめた医療情報シートを作成している。またホームとしても出来る限りの柔軟な対応ができるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化や終末期ケアにむけた指針の説明を行い、本人・家族と話し合いを重ね、希望に寄り添ったケアに努めている。また終末期を迎える前には往診意に転院して頂き支援に努めている。	入居時に事業所の方針を説明しています。看取りの際には、利用者と家族の希望をすり合わせ、医療機関とも話し合いを重ね連携して支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議での話し合いや救援時などの対応マニュアルを作成し取り組んでいる。また今後は、救命救急の講習会など外部の研修会の参加も考えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年に2回火災避難訓練を消防署や地域の協力を得て取り組んでいる。	年2回の避難訓練を実施しています。地域防災ラジオを常備し、非常時にすぐに行動できるようにしています。現在ある非常時の備蓄をさらに充実させていくことになっていきます。	訓練には地域からの参加があり、運営推進会議でも取り上げています。訓練で見いだされた課題の改善についても表明していますが、職員全員が訓練を経験していません。全員が非常時に対応できるよう実践的な訓練を行うことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	暮らしを共にする者として、時には親しい声掛けをすることもありますが、人生の大先輩として利用者との向き合い方を研修会や会議、ときには現場などで行っている。	職員は、病としての認知症を理解し、利用者との信頼関係を大切にしています。利用者のかけがえのない毎日を楽しみながら過ごせるよう支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の対話、やりとりのなかで本人の希望を汲み取り、実践していけるように努めている。自己決定の尊重の大事さを研修会や会議などを通じ、日々学んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしのなかで、習慣化するのではなく、本人の言葉や表情、行動に寄り添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や衣類などの買い物の希望に合わせて取り組むことや職員から提案することもあり、身だしなみについて普段から配慮を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむの一つと捉え、調理なども職員と行うことや基本的には利用者と職員と一緒に食事をして、準備や片づけも行っている。	食事は手作りの物を、利用者の好みを取り入れて提供しています。時にはバイキングで好きなものを選べるようにしたり、弁当持参で外出するなど、変化を付けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は記録に書きとめている。また食事や水分の確保が難しい場合は、時間をおくことや代替えた食事を摂って頂くなど柔軟な対応に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯医者への往診をうけている。その際、口腔内のケアについてのアドバイスをもとに支援に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録や仕草、行動のなかから排泄のパターンの把握や必要に応じて羞恥の面に配慮した声掛けに努め、排泄の失敗が減るよう配慮に努めている。	排泄パターンによる誘導の他、利用者の必要に応じて介護計画に記載しケアを行っています。利用者の気持ちや体調に合せオムツやパッドなどを提案し、適切なものを使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人と予防改善にむけた相談や飲食物の工夫や運動の取り組みをしていけるよう朝の申し送り時に話し合い実践している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中帯の3時間程度の限られた時間のなかで希望に寄り添えるよう相談や配慮に努めている。	午後の時間に入浴を行っていますが、利用者の希望により夕方以降の入浴や同性介助も対応が可能です。法人で温泉施設を運営しており、利用者の温泉に行きたいという希望にも対応できます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境への配慮や夜間帯の様子、本人の表情、想いを大切に柔軟な対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や効能、副作用が把握できるよう服薬ファイルを作成している。また医師や非常勤看護師からどのようなことが考えられるかを聞き、変化に気づけるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活史の背景を活かした調理やレクリエーション活動、また環境面への配慮を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話のなかで、希望を取り入れ散歩や買い物、ドライブに出掛けることもあり、出来るだけ柔軟な対応ができるよう努めている。	その日の天候や利用者の希望で外出を行っています。カラオケや外食、弁当持参で四季折々の自然を楽しみに出かけています。利用者と家族も一緒に祭り見学に行くなど、写真だけでなく家族と一緒に思い出を残すようにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時の段階から利用者・家族との話し合いを重ねている。また生活状況のなかでの変更もあり、ご自身でお金を所持されている方や、そうではない方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があり、相手が初めての方の場合は家族連絡をして確認をとったうえで支援させて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季にあわせた装飾や混乱を招かないよう温かみのある色を使った案内表示を掲示するなど居心地の良く、住みやすい環境への配慮に努めている。	新築2階建ての事業所は、窓から日差しが差し込んでおり、バリアフリーで、清掃が行き届いています。トイレのドアが車いすや手が不自由な利用者にも開けやすいものとなっています。利用者の作品には手作りの額を付け大切に飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや居室だけではなく、窓から景色が見える廊下や共同スペースに椅子を配置し、その時の気持ちに配慮できるよう居場所の工夫に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室には、その人らしさを感じる個性が表れ、本人が使い慣れたものを中心に用意して頂いている。また生活状況の変化に合わせ、相談や提案のもと職員と共に模様替えなども行っている。	利用者の居室は6畳の広さがあり、クローゼットが造り付けとなっています。利用者が安心できるよう使い慣れた家具を持ち込み生活しやすいよう配置しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり、また歩行器を使うことで自由に歩くことができている。生活のなかでのつまずきが少しの工夫でできることに変わる支援ができるよう安全面に配慮し、取り組んでいる。		